

日医FAX ニュース



■ 来夏の参院選、1次公認に釜菴氏

— 自民、45人決定 —

自民党は7月25日、選挙対策本部の会議を開き、来夏の参院選に向けて1次公認候補者を決定した。日本医師連盟の組織内候補で、現日医副会長の釜菴敏氏(71)も、新人として入った。1次公認候補者は、比例代表17人、選挙区28人の計45人。

比例代表の医療関係の候補者としては、ほかに以下の各氏が選ばれた。

▽日本看護連盟の組織内候補で、元参院厚生労働委員長の石田昌宏氏(57、2期)▽日本歯科医師連盟の組織内候補で、参院厚生労働委員長の比嘉奈津美氏(65、1期)▽日本薬剤師連盟の組織内候補で、文部科学大臣政務官の本田顕子氏(52、1期)▽日本理学療法士連盟の組織内候補の田中昌史氏(58、1期) —。

熊本選挙区では、元厚生労働大臣政務官の馬場成志氏(59、2期)が公認を受けた。

来夏に任期満了を迎える厚労関係議員では、元厚労相で参院議長を務める鹿児島選挙区の尾辻秀久氏(83、6期)、一億総活躍担当相

や厚生労働副大臣を歴任した比例代表の衛藤晟一氏(76、3期)が、すでに引退を表明している。 【メディファクス】

■ 自民公認で「決意新たに」

— 日医連候補・釜菴氏 —

来夏の参院選に向けて自民党の公認を受けた日本医師連盟組織内候補の釜菴敏氏(日医副会長)は7月25日、「本当にありがたい。全力で取り組む決意を新たにしたい」と取材に話した。

医療現場を取り巻く環境は厳しくなっているが、国民や国会議員の理解が十分には得られていないと説明。「医療の厳しい現状に対する幅広い理解を促すとともに、改善する方策を進められるよう、全力で取り組みたい」と力を込めた。 【メディファクス】

■ コロナ治療・対症療法薬、増産と安定を

— 厚労省が要請 —

厚生労働省医政局医薬産業振興・医療情報企画課は7月23日付の事務連絡で、今般の新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、日本製薬団体連合会に対して治療薬と対症療法薬の増産と安定供給への協力を呼びかけた。

事務連絡は、22日の「新型コロナ等の感染拡大に対応する有識者ヒアリング」で、全国の定点医療機関から新規のコロナ患者数が増加している状況が報告されたことを受けた協力要請。治療薬や、対症療法薬として使用される▽解熱鎮痛薬▽鎮咳薬▽去痰薬▽トラネキサム酸—などについて、需給状況を踏まえ

必要に応じて適切に増産し、早期の納品を行うよう求めている。【メディファクス】

■ 「お祝い金」で許可取り消しも

— 医療人材紹介、厚労省が方針 —

厚生労働省は7月24日、医療・介護・保育などの悪質な人材紹介事業者への対策を強化する方針を示した。「お祝い金」や転職勧奨の禁止を事業許可の条件とし、違反が続く事業者は許可取り消しの対象とする。職業安定法に関する指針（告示）を改正し、今秋にも施行する構えだ。

労働政策審議会の職業安定分科会「職業安定分科会労働力需給制度部会」（部会長＝山川隆一・明治大法学部教授）で方針を示し、大筋で了承された。

医療などの紹介事業者を巡っては、手数料の高騰が医療経営などを圧迫しているとの指摘を受け、厚労省が昨年8月から今年5月に、全国の約1152事業所に対する集中的な指導監督を実施した。その結果、6割に当たる716事業所で職安法や指針の違反を確認した。

お祝い金の提供は現行の指針で禁じているものの、罰則の規定はない。指導監督では、面接の際に数千円の電子ギフトカードを支給したり、資格取得費用として数万円程度のキャッシュバックを行うといった事例が発覚していた。

●紹介手数料を「見える化」

利用料金や違約金の規約を明示することも紹介事業者の義務とする。求人情報などの検索サービスを提供する「募集情報等提供事業者」も対象とし、規約の内容を書面や電子メ

ールで正確・明瞭に提示する旨の規定を追加するとした。

職種ごとの紹介手数料を「見える化」する方針も打ち出した。省令を改正し、厚労省の「人材サービス総合サイト」で公開するとした。

これらの対策は、事務職をはじめ3分野以外の人材を紹介する事業者にも適用する。

●ハローワークの機能も強化

医療など3分野を中心とする人材確保策としては、ハローワークの機能強化を打ち出した。専門の窓口を整備したり、「ハローワークインターネットサービス」を充実させるといった内容を示した。

厚労省は法令の見直し作業に着手する。改正案を部会に図った上で、パブリックコメントを実施、施行につなげる運びだ。

【メディファクス】

■ 処方箋・調剤録は「5年保存」へ

— 制度部会、薬剤師法に反映 —

厚生科学審議会・医薬品医療機器制度部会は7月25日、調剤済みの処方箋と調剤録の保存期間について議論した。被害救済の観点から「電子化し永久保存」という意見もあったが、診療録の保存期間と合わせて5年間保存する方向でまとまった。医薬品医療機器等法改正に合わせて来年にも改正を予定する薬剤師法に反映させる見込み。事務局は「十分な準備期間を取るなど、現場に配慮しながら進めたい」と説明した。

処方箋などの保存期間は、1960年の制定時から薬剤師法で「調剤済みとなった日から3年間保存しなければならない」と定められて

いる。厚生労働省は、▽近年は電子媒体での保存・電子処方箋の活用により保管が容易になった▽5年間保存する診療録との不整合を解消する必要性がある一ため、5年間への延長を提案した。

委員から大きな反対はなかった。

【メディファクス】

■ コロナ定点、佐賀31.08

— 7月15～21日、全国は13.62 —
厚生労働省は7月26日、2024年第29週（7月15～21日）の新型コロナウイルス感染症の発生状況を公表した。全国の定点当たり報告数は13.62で、11週連続の増加となった。総報告数は6万7334人で、前週から約1万2200人増えた。

都道府県別の定点当たり報告数は、佐賀が31.08で最多。次いで宮崎（29.72）、鹿児島（27.38）で、九州での感染拡大がうかがわれる。基幹定点医療機関（全国約500カ所）の届け出に基づく期間中の入院患者は3827人で、前週から増えた。

【メディファクス】

■ 手足口病13.34、「かなり多い」

— 7月8～14日 —
国立感染症研究所は7月26日、感染症週報第28週（7月8～14日）を公表した。手足口病の定点当たり報告数は13.34で、16週連続で増加した。過去5年間の同時期の平均と比べて、「かなり多い」状況が続く。

都道府県別の上位3位は、三重（33.69）、富山（21.93）、埼玉（21.75）だった。

マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は0.65で、2週連続で増加した。過去5年間の同時期の平均と比べて「かなり多い」。

【メディファクス】

■ 熱中症に関する動画を公開

— 日 医 —

日医ではこの夏も酷暑になることが予想される中で、熱中症に関する注意を呼び掛けるため、新たに3つの動画「教えて！日医君！熱中症に関する豆知識」を制作し、7月17日から公式YouTubeチャンネルで公開を始めました。

動画はいずれも5分ほどで、気軽に見られるものになっており、日医君の声は引き続き声優の藤原夏海さんが担当しています。

「Part 1 熱中症について」では、熱中症とはどんな病気なのか、なりやすい場所、特に注意が必要な人などを解説。「Part 2 熱中症予防について」では、屋内、屋外ごとの予防策の他、予防に役立つ便利な情報を紹介しています。

また、「Part 3 熱中症の対処法について」では、熱中症になってしまった場合や熱中症が疑われる人を見つけた場合の対処法を分かりやすく説明しています。

これから全国的に梅雨明けし、ますます暑さが厳しくなる中で、本動画により熱中症に関する豆知識を得て頂き、一人でも多くの方が熱中症になることを防いで頂ければ幸いです。

動画のURLは、以下の通り

<https://www.med.or.jp/people/health/he atstroke/006849.html> 【「日医君」だより】